

1 敏感肌とは何か？

花王(中国)研究開発中心有限公司 副董事長・総経理

石田耕一

ISHIDA Koichi

1 はじめに

「敏感肌」という言葉は広く用いられるようになったが、その起源は20世紀半ばの敏感肌の洗浄についての議論まで遡る¹⁾。その後、1970年代にp-アミノ安息香酸誘導体を含有するサンスクリーン剤使用後のステインギング(刺激感)など、安全性が確認された化粧品でのトラブルなどが問題視され始めた²⁾。そして1980年代にThiersらによって「敏感肌」の特徴づけが始まり³⁾、1990年頃から敏感肌の実態調査、皮膚生理研究や皮膚感覚研究が著しく進んだ。

敏感肌は主観的な症状が主体であり、その原因が多岐にわたるためにいまだ不明瞭な部分が多いが、共通して「種々の環境因子に対しての皮膚の自覚的な過剰反応状態」とされており、他覚的な症状が認められないのに、かゆみ、灼熱感、チクチク感、つっぱり感などの不快な自覚症状が常に存在している状態とされている⁴⁾。

2 敏感肌実態

1. 敏感肌意識

2000年代に欧米で数多くの敏感肌意識調査がなされている⁵⁾。対象、敏感肌の定義、質問形式や質問内容などが異なるために一概に比較はできないが、敏感肌比率は概ね50～60%、なかには90%に達する報告もあり、女性の大多数は敏感肌とっており、男性においても着実に増加している。

われわれは、2007年に中国、香港、台湾、タイにて、女性を対象に敏感肌調査(「敏感だと思う」、「やや敏感だと思う」、「敏感だと思わない」の3段階評価)を実施し

た。その結果、敏感肌意識は、日本では約77%であるのに対し、中国、香港、台湾、タイでは40～50%であった(図1)。

2. 敏感肌の種類と呼称

敏感肌は、その症状や原因、頻度などによって分類される。

本来、敏感肌は客観的な皮膚症状が認められない皮膚生理異常によるものとされ、皮膚疾患と明確に区別されていた。しかし、実際には自己申告による敏感肌者のなかに皮膚疾患を伴っているケースが多い⁶⁾。最近1年間の湿疹・皮膚炎トラブル経験やアトピー性皮膚炎と診断された者では、そのほとんどが敏感肌意識を有しており、その程度も重篤である(図2)。一方で、皮膚にはまったく異常がない心理的要因による敏感肌、すなわち「思い込み敏感肌」も相当数存在すると推定される⁷⁾。

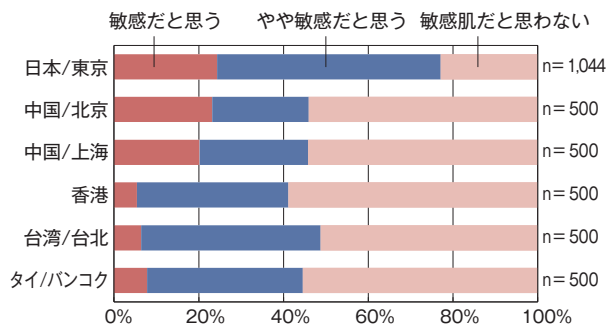


図1 日本およびアジア各国における敏感肌意識

(花王株式会社調べ、2007年)